

1%

ワンパーセントクラブカレッジ

CLUB

COLLEGE

PROGRAM

2003

19:00～20:30
2003年9月30日(金)

ダイアモンドルーム
経団連会館12階

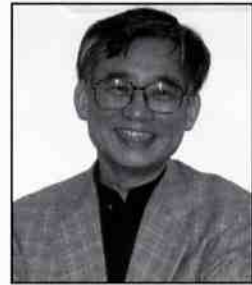
A 企業人のためのNPO基礎講座

特定非営利活動法人日本NPOセンター 寄付講座

NPOとは何か? 特に「現在」の「日本社会」にとって何か? NPO法が施行されてやがて5年が経とうとしており、NPO法人の数も1万2千を越え、NPOの存在意義もそれなりに社会に認められるようになった。しかし普及とともに当初の関係者の思いが風化しつつあるのではないかと危惧される状況もある。それだけに、今こそしっかりとNPOの意味を再確認したい。

そしてNPOの活動が将来の企業活動とどのような関係を持ちうるのか、まだ見えぬ関係も含めて、参加者の皆さんと一緒に考えてみたい。

<http://www.jnpoc.ne.jp/>



特定非営利活動法人
日本NPOセンター
常務理事
山岡義典さん

日本NPOセンター

NPOの社会的基盤の強化を図り、市民社会づくりの協働責任者としての企業や行政との新しいパートナーシップの確立を目指し、1996年から活動している特定非営利活動法人。

18:30～20:30
2004年3月5日(金)

クリスタルルーム
経団連会館9階

B 賢い寄付者は社会を変えるか?

シーズ=市民活動を支える制度をつくる会 寄付講座

様々な社会の課題解決のために、市民が協力しあい、NPOをつくって活動しています。そうしたNPOにとって、寄付は単なる資金源ではありません。募金活動を通じて、社会的な課題への「気づき」を人々に提供し、理解者や支援者を増やすことが大切なのです。寄付する側も、社会をよりよく変える機会を提供してくれるNPOを、自分の価値観に応じて選ぶ目が必要になってきます。賢い寄付をするにはどうすればいいか、NPOを支援する税制のあり方も含めて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

<http://www.npoweb.gr.jp/>



シーズ 事務局長
松原 明さん

シーズ=市民活動を支える制度をつくる会

法律づくりを通してNPOの活動基盤を目指す、約120の市民団体による連合プロジェクトです。NPO法やNPO支援税制の整備、NPOの情報公開などについて市民サイドで中心的な役割を担っています。

18:30～20:30
2003年10月10日(金)

第2会議室
経団連会館7階

多文化共生社会の形成について考える

国境を越えた人の移動が拡大しています。日本でも2002年度末の外国人登録者数は180万人を越えています。中国、ブラジル、フィリピンなど、世界各地から来日し、定住する外国人は、日々どんな生活を送っているのでしょうか。阪神大震災以後、多言語による情報提供や通訳コーディネートを行ってきたNPOの現場から、課題と展望をみつめます。また、外国人を受け入れる地域社会も新たな局面を迎えています。ちがいを受け入れ共に社会を創造していく『多文化共生社会』の形成に向けて、行政、企業、市民、それぞれに求められる役割についても考えてみましょう。

<http://www.tabunka.jp/>



特定非営利活動法人
多文化共生センター 代表
田村太郎さん

18:30～20:30
2003年10月24日(金)

第2会議室
経団連会館7階

日本にも難民が来ていることを知っていますか?

世界各地では戦争や民族紛争によって、また政府からの迫害や弾圧によって難民となって祖国を追われる人は現在2000万人以上にのぼっています。大量に逃れた難民への支援や受入れの問題は、常に国際社会の関心事項の一つとなっています。その一部の人々が日本にも保護を求めてやって来ており、祖国に帰ることができる日まで日本社会で暮らしています。国際社会の一員として日本も難民条約に加入していますが、その実態はどうなのでしょう。また、日本社会を構成する市民や企業、行政は具体的に何ができるのかについて参加者の方々と一緒に考えてみたいと思います。

<http://www.refugee.or.jp/>



特定非営利活動法人
難民支援協会 事務局長
筒井志保さん

III 基礎編 国際協力

18:30 ~ 20:30
2003年11月14日(金)

第2会議室
経団連会館7階

援助から共生へ

相次ぐ自然災害や紛争の中、国際協力NGOは緊急救援活動にその流れが大きくシフトしています。NGOのプロ化とボランティア、ODAに依存しがちなNGOの独立性などの課題もあります。そんな中、シャプラニール=市民による海外協力の会は30年以上に渡って数々の失敗に学びながら国際レベルのNGOたらんと開発協力のノウハウを鍛え上げてきました。現在はバングラデシュとネパールで最貧困層の農民や都市部のストリートチルドレンを対象に地道な支援を続けています。南の貧しい人々の生活を向上していく手助けをするだけでなく、私たちの暮らしを変えていく必要があるということを学んできました。全ての人々が共に豊かに生きる地球社会の実現を、一緒に目指しましょう。

<http://www.shaplaneer.org/>



特定非営利活動法人
シャプラニール=市民による
海外協力の会 事務局長
坂口和隆さん

IV 実践編 国際協力

18:30 ~ 20:30
2003年11月28日(金)

第2会議室
経団連会館7階

国際協力 ～失敗と成功事例から学ぶ～

1日1ドル以下の収入で生活する人々が世界で13億人に達しています。この貧困を軽減するという挑戦は、決して平坦な道のりではありません。CCWAでは、精神里親と呼ばれる会員からの協力を得て、教育、保健および栄養改善などの活動を通して子どもの成長を支援し、成人教育、職業訓練、ローンの貸付などにより地域住民の生活改善のための努力を支援してきました。フィリピンでの28年にわたる国際協力の実践から、失敗事例と成功事例を紹介しながら、貧困層のニーズに対応した支援のあり方についてお話しします。

<http://www.ccwa.or.jp/>



社会福祉法人 基督教児童福祉会
国際精神里親運動部(CCWA)部長
小林 毅さん

V 基礎編 社会福祉

18:30 ~ 20:30
2003年12月5日(金)

第2会議室
経団連会館7階

NPOにおける事業と運動のバランス

NPOが提供するサービスは、行政や企業とは何が異なるのでしょうか。やわらぎでは、NPOとしての価値観やこだわりが反映されたサービスを可視化するシステムの一つとして、日本で初めて訪問看護・介護、デイサービス、ケアプランの4つについて、「品質」を保証するISO9001を取得しました。自分たちの仕事を自分たちの言葉でマニュアル化し、業務の標準化を図ることによって、サービスの品質が保たれ、それが受益者の信頼につながっています。「介護はプロに、家族は愛を」をスローガンとする、やわらぎのこだわりを通して、事業と運動を両立させることができるNPOだからこそ提供できる付加価値を感じていただければと思います。



特定非営利活動法人
ケア・センターやわらぎ 代表理事
石川治江さん

VI 実践編 社会福祉

18:30 ~ 20:30
2003年12月19日(金)

第2会議室
経団連会館7階

子どもたちの 笑顔のためにできること

キッズエナジーは難病の子ども達を支援しているNPO法人です。国内には、難病と闘っている子ども達がおおよそ10万人います。治療法が確立していない、いのちの危険がある治療が長期に及び生活に支障があるなど厳しい状況の子ども達です。これらの子ども達は、最善の治療法の情報が届いていなかったり、学習や成長発達を促すシステムが確立していません。また、家族の抱える課題は多岐にわたり、物質面だけではなく、心身共に社会的支援を必要としています。

※参加費のほかに、書籍「難病の子ども情報ブック」(1500円)を教材としてご購入いただきます。

<http://www.kids-energy.org/>



特定非営利活動法人
キッズエナジー 代表
大川原千代子さん

VII

実践編
社会福祉

18:30 ~ 20:30
2004年1月9日(金)
第2会議室
経団連会館7階

ドメスティック・バイオレンスを考える

「主張するTシャツ」とは、ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害を受けた女性やその家族が、体験や思いを直接書きつづったTシャツです。私たちはこのTシャツの展示を通し、DVの実態や影響についてひろく知ってもらう活動を続けています。DVは医療費や福祉サービスの費用などの社会的コストを押し上げ、働く女性の労働の質と量を低めます。欧米ではすでに、社会あるいは会社の利益のために、さまざまな防止と支援のプログラムが行われているようです。社会的な問題としてのDV被害と支援について、日本の実例を紹介しながらお話ししたいと考えています。

<http://www.ne.jp/asahi/clothesline-japan/tshirt/>



「主張するTシャツ」を集める会
埼玉オフィスディレクター
あぜがみゆうこさん

VIII

環境

18:30 ~ 20:30
2004年1月23日(金)
第2会議室
経団連会館7階

生態系の危機を救う企業と個人の行動

環境問題に対する姿勢は企業の将来を左右するとされています。中でも、生物多様性に関わる問題は、持続可能な開発を実現するための核心とも言えます。それは人間生活の質を左右し、ビジネスを含め、すべての人間活動の持続性を決定する主要な要素でもあります。アースウォッチは、持続可能な環境に対する理解と必要な行動を促進するため、科学的野外調査と教育に世界中の人々の参加を促すことを目的としています。そしてアースウォッチの多様な研究と教育プログラムが取り組む重要な環境問題の詳細を明らかにします。アースウォッチ・ジャパンの活動を通して、ビジネス界の人々が生物多様性の重要性に関心を持つようになることを願っています。

<http://www.earthwatch-japan.gr.jp/>



アースウォッチ・ジャパン
会員 鷹取 澄さん

IX

教育

18:30 ~ 20:30
2004年2月13日(金)
第2会議室
経団連会館7階

構造改革特区で新しい学校を

教育基本法第3条により「すべての子供が能力にあわせた教育を受ける権利」を有しています。しかし、現在の学校教育に適應できない子どもたちは、その権利を行使できないまま成長していく状況になっています。LD(学習障害)児やADHD(注意欠陥多動性障害)児に、知的な遅れはなく、苦手な部分がある反面、適切な指導と援助があれば優れた個性を伸ばしていくことができます。ライナスの会では、教育・心理・医療・福祉の専門家が連携し、そうした子どもたちに必要な支援を個別指導計画に基づいて行ってきました。構造改革特区における「新しい学校」づくりに向けた活動もご紹介しながら、共に「新しい学校像」について考える場を設けたいと思います。

<http://www.linus.or.jp/>



特定非営利活動法人
ライナスの会・湘南ライナス学園長
吉崎真里さん

X

まちづくり

18:30 ~ 20:30
2004年2月27日(金)
第2会議室
経団連会館7階

安全セミナー ～街の現状と身を守る方法

昨年の刑法犯認知件数は285万件でした。情報公開が進み、自分の住んでいる街の犯罪発生状況を知り、あまりにも犯罪が身近にあることに驚くとともに、危機感を感じる声が増えてきます。講座では、「ストリート・スマート」と呼ばれるガーディアン・エンジェルスの街における23年間の防犯活動の実績に基づいた「安全セミナー」を行います。私たちのパトロールの現場で接する少年たちが大人たちに求めているものは何か?現状を知っていただくこと、そして犯罪から身を守る方法などをお話します。

<http://www.guardianangels.or.jp/>



特定非営利活動法人
日本ガーディアン・エンジェルズ
理事長 小田啓二さん

～1%クラブカレッジとは～

1%クラブカレッジは、企業に勤める人々が社会の課題について学び、自ら考え、行動するきっかけを提供するため、1%クラブが2003年度から開設するカレッジです。社会福祉、環境、教育、多文化共生など、社会には数多の課題があります。そうした課題に気づき対処するために活動しているNPO関係者を講師に、活動に取り組むことによって見えてきた変貌する社会の姿やさらなる課題を語っていただき、参加者が共に考え、学んでいくことを目指します。

2003年度は、個別のNPOの活動を紹介する講座

「社会を変革するNPO～10の挑戦」の他に、特定非営利活動法人をはじめとするNPOの実態や課題について学び、私たち一人ひとりが賢い寄付者やボランティアとなるための特別講座も開催します。

関心ある社会的課題の現状を知りたい、社会と繋がっているという実感を持ちたい、自分が培ってきた知識や技術を社会のために役立てたい、NPOとは何かを知りたい…そんな思いを持っている企業人の皆さん、是非ご参加ください。新しい出会いや刺激が皆さんをお待ちしています。

開催概要

◆開校式 2003年9月30日(火) 18:45～19:00 *開校式に引き続き、NPO基礎講座Aを開催します。

特別講座：NPOに関する基礎的な知識を学ぶ講座

A. 企業人のためのNPO基礎講座

日時	2003年9月30日(火) 19:00～20:30
場所	経団連会館 12階 ダイアモンドルーム

B. 賢い寄付者は社会を変えるか?

日時	2004年3月5日(金) 18:30～20:30
場所	経団連会館 9階 クリスタルルーム *参加費無料

「社会を変革するNPO～10の挑戦」：10のNPOの活動を通じて社会の課題を学ぶ講座

日時	以下の金曜日の18:30～20:30(120分) 2003年10月10日、10月24日、11月14日、11月28日、12月5日、12月19日 2004年1月9日、1月23日、2月13日、2月27日
場所	経団連会館 7階 第2会議室
定員	各回30名(定員になり次第締切)
参加費	各回とも1,000円(当日会場でお支払いください) *参加費は、講師を務めるNPOに全額寄付されます。また、資料代、ワークショップの材料費などを別途申し受ける場合があります。その場合には、個別の講座案内に明記してありますので、ご参照ください。
その他	内なる国際化、国際協力、福祉については、それぞれの課題の概観に関する説明も含めた基礎編を用意しています。基礎編、実践編と続けて参加すると理解がさらに深まります。
食事等	飲み物および夕食は用意していません。飲み物については、各自ご持参くださるようお願いいたします。

参加申込方法

- ①ご自分の関心に応じて受講を希望する講座を選んでお申込みください。必ずしも全講座出席する必要はなく、1講座からお申込みいただけます。一度にお申込みいただいても、その都度お申込みいただいても結構です。
- ②出席のお申込みは、各講座の3日前が締切です。それまでに必要事項をご記入の上、Eメールもしくはファックスでお申込ください。
- ③定員を超えお断りする場合は除いて、事務局から参加確認のご連絡はいたしませんので、当日会場までお越しください。
- ④参加お申込み後、欠席に変更される場合は、事務局までご連絡ください。

申込先：1%クラブ事務局

E-mail：1p-club@keidanren.or.jp

FAX：03-5255-6255 電話：03-5204-1750

FAXでの参加申し込みは裏面をご利用ください。

メールでの参加申し込みの場合も右記の内容を明記してください。



1%クラブ事務局

〒100-8188 東京都千代田区大手町1-9-4

(社)日本経済団体連合会 社会本部内

電話: 03-5204-1750 FAX: 03-5255-6255

E-mail: 1p-club@keidanren.or.jp

URL: <http://www.keidanren.or.jp/1p-club/>

1% (ワンパーセント) クラブとは

1%クラブ(会長・代表世話人:伊藤助成 日本生命保険(相)会長)は、何か社会の役に立ちたいと思う人たちのサポーター。企業であれば経常利益の1%以上、個人であれば可処分所得の1%以上を目標に寄付やボランティア活動を通じて社会に貢献しよう、という趣旨に賛同して、現在、法人会員269社、個人会員1,123名の方々が入会しています。1%クラブでは、企業や個人がそれぞれの思いや関心に応じて社会貢献活動をすることを応援しています。1989年の設立時から、1%クラブニュース等での情報提供や会員相互の情報交換会の開催、ボランティア活動の機会や企業人とNPOとの出会いの場の提供などを行っています。



参加申込書

氏名				会社名			
住所							
ご連絡先	TEL:	FAX:		E-mail:			

ご希望の参加講座No.をチェックしてください。

講座No.	講座名	参加希望	講座No.	講座名	参加希望	講座No.	講座名	参加希望	講座No.	講座名	参加希望
特別講座A	企業人のためのNPO基礎講座	<input type="checkbox"/>	II	内なる国際化実践編	<input type="checkbox"/>	V	社会福祉基礎編	<input type="checkbox"/>	VIII	環境	<input type="checkbox"/>
特別講座B	賢い寄付者は社会を変えるか?	<input type="checkbox"/>	III	国際協力基礎編	<input type="checkbox"/>	VI	社会福祉実践編	<input type="checkbox"/>	IX	教育	<input type="checkbox"/>
I	内なる国際化基礎編	<input type="checkbox"/>	IV	国際協力実践編	<input type="checkbox"/>	VII	社会福祉実践編	<input type="checkbox"/>	X	まちづくり	<input type="checkbox"/>

FAX: 03-5255-6255 / E-mail: 1p-club@keidanren.or.jp